



色彩館に咲く

アメリカヤマボウシ

Cornus florida

ミズキ科ミズキ属

原産国：アメリカ東部温暖地、
メキシコ北東部に分布



友好の架け橋

アメリカヤマボウシは、高さ4～10mになる落葉小高木で、一般的には「ハナミズキ」の名前で親しまれています。花は4～5月に葉の展開に先立って咲き、枝先に黄緑色の小花が20個ほど集まってつきます。それを包むように4枚ある一見花卉のような部分は、苞（ほう）という葉が変形したもので、白や紅色になり、先端はくぼみ長さは4～5cmになります。温帯各地では街路樹などにも使われ、大変人気のある花木ですが、耐寒性はあまり強くないので北海道で庭木として楽しめるのは道南部から道中央までで、ただ道中央では越冬はするものの開花しないという声を多く聞きます。そのため北海道では代わりに同じミズキ科ミズキ属である、日本と朝鮮半島原産のヤマボウシを植えているというお庭も多いのではないのでしょうか。品種はいくつかあり、黄桃色、ローズピンク、薄桃色、濃いローズレッド、ピンクの覆輪など苞の色にバリエーションがあります。

ハナミズキが日本に初めてもたらされたのは明治時代の中期という記録が残っていますが、1912年（明治45年）に日本からアメリカに贈られたサクラの返礼として1915年にアメリカから贈られたのがハナミズキであったという逸話が有名でしょう。日本から贈られたサクラは、第二次世界大戦中も大切に育てられ1949年からは桜の開花時期に合わせて「桜まつり」も行われるようになりましたが、日本のハナミズキは「敵国の贈り物」として多くは忘れ去られてしまったそうです。近年になってそのハナミズキの原木探しが行われ、数本の原木が発見されました。いずれの老木も幹周は1mを超え、樹高も10m近くになっているそうです。今では日米の友好の木として特別な存在になっています。国際化が進んだ昨今、日米だけでなく世界の友好をも願ってやみません。

色彩館のハナミズキは毎年3月下旬頃から4月上旬頃まで楽しめます。



生演奏 & 特別ランチ

冬期間は土日祝日のみ営業しているバラ園のレストランですが、12月から3月までは月1回1日3公演のランチコンサートを行います。素敵な音楽と美味しいランチはいかがですか？*悪天候時中止の場合もあります。

3月28日(土) ①12:00~ ②12:30~ ③13:00~ 1,800円

お問合せは
札幌本店へ



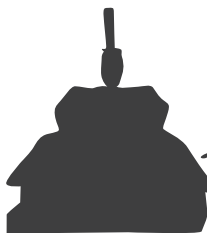
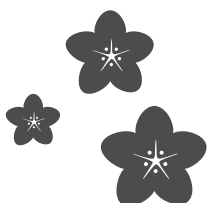
050-5798-2196

トラットリア

ルッチ

TRATTORIA Lucci

今月の便り



バラ園

今年は本当に雪が少ないですね。色彩館のつるバラの剪定と葉むしりも完了し、油かすを施肥しました。あとは開花を待つだけ。これからは春に植栽するバラ苗が納品されてきます。ポットに植え込んで雪解けを待ちます。

色彩館



大温室では道内最大級のつるバラの葉むしりと剪定が完了しました。早いものは蕾が上がってきています。他のものに先駆けてモッコウバラの開花が始まりそうです。ギンヨウアカシア、クリスマスローズなど春を感じる花がまだまだ開花中。3月の下旬にはスイセンが開花予定。ヒメサザンカの開花もポチポチ始まりました。サルコッカの花がいい香りです。

花と緑の供給センター

パンジーとビオラの鉢上げとペチュニアの播種作業が終わり、今度はゼラニウムの鉢上げが始まります。ベゴニアもだんだん大きくなってきました。色彩館で販売する観葉植物の鉢植え作りもバリエーションが増えてきました。

種まきの話



3月。

まだ雪の残る岩見沢ですが、風や陽ざしに春の気配を感じられるようになりました。人によっては、そろそろ種をまこうかなあ、と考えているかもしれません。庭に植える植物を、種から育てるのは手間がかかりますが、発芽した時や、庭に植えて花が咲いた時の満足感はひとしおです。

種をまく時のポイントは、種袋の説明をよく読んで、その植物が発芽しやすい環境を整えてあげることです。適切な温度、水、空気(種類によっては光も)は発芽するための重要な条件なのです。

雪だけが待ち遠しくなるこの季節。種をまいて、種と一緒に春を待ってみてはいかがでしょうか。

よし
なし
ごと

Miz

ひとつき ひとバラ



文：新堂大樹
(いわみざわ公園バラ園)

イラスト：藤川志朗
(イラストレーター)

第十二回

原種

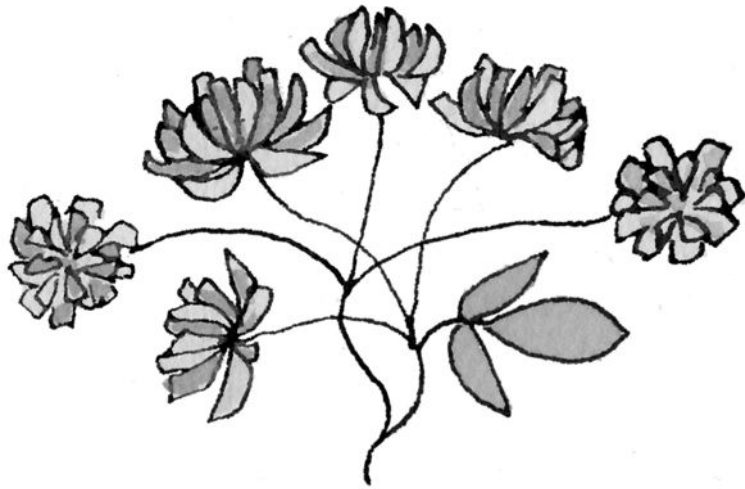
モッコウバラ

Rosa banksiae

原産国：中国

ハーディネスゾーン：Z7～Z10

一季咲き性



モッコウバラは、中国原産の常緑性つるバラで、日本には江戸時代中期に渡来しました。花は白か淡い黄色で、それぞれ一重咲と八重咲があり、直径2～3cmの小さな花を咲かせます。大輪のバラと比較するとひとつひとつの花は地味ではあるかもしれませんが、樹木全体を花で覆いつくす様に咲かせる様は大変豪華なものです。白色の花を咲かせるものは「シロモッコウ」、黄色の花のものは「キモッコウ」とも呼ばれています。一般的にモッコウバラといった場合には、黄色の八重咲を指します。性質が頑強で育てやすいですが、生育が良すぎるのでつるの誘引やコンパクトに育てるのには手入れがかかります。病虫害や耐寒性・耐暑性ともに強く、トゲが少ないのも魅力的であるため、本州の気候でも病害虫に悩まされずに育つ一季咲きのつるバラとして大変人気があります。耐寒性が強いとはいえ、残念ながら北海道では地域によっては越冬はするものの大きく育てるのは難しく、本来の姿で楽しむことはできないようです。

北国のロザリアンの中には、園芸誌などで見事に開花する素敵な写真に憧れを持っている方も多いのではないのでしょうか。

モッコウバラ(木香薔薇)の名前は、中国名の「木香花 (Mu Xiang Hua)」を音読みしたものです。また、「木香」というインド原産のキク科植物の根を干して用いる芳香剤と似た香りを放つことによってもいわれ、学名の種小名は植物学者でありプラントハンターでもあったジョゼフ・バンクス(1743-1820)の夫人にちなみ、イギリスの植物学者で細胞核を発見したことで有名なロバート・ブラウン(1773-1858)によって命名されました。また、キモッコウは秋篠宮家第一女子・眞子内親王のお印となっていることでも有名ですね。

当園、色彩館大温室内では、キモッコウバラ、シロモッコウバラともに栽培しております。現在枝に蕾を沢山つけて今か今かと開花を待っているところ。もしかすると、昨年より早く3月中旬頃からは見頃を迎えるかもしれません。



アメリカバラ協会によると、現在バラの品種は 25,000 品種を超える園芸品種や原種の登録があり、実際に栽培されている品種は数千品種に及ぶとされています。毎年発表される新品種は、計画的に選ばれた種子親と花粉親を交配させた実生苗から選ばれたもので、登録に値する品種が生まれるのは数万本の実生苗から 1 本生まれるかどうか。その中から銘花と呼ばれる品種が生まれる確率は本当に奇跡に近いものであるといえます。ただ、個人で楽しむのはまた別の話。自分の庭のバラの中からその性質や花色を想像して、自分の理想のバラの交配に挑戦してみるのも面白いものです。思わぬ掛け合わせで素敵なバラが生まれるかも。

今年も開催！

藤川志朗 花の水彩画と食器展

初日は
スケッチ講座も！

日程 2015 年 3 月 22 日 (日) ~
2015 年 3 月 29 日 (日)

時間：9:00~17:00 入場無料

場所：いわみざわ公園バラ園室内公園色彩館ロビー

毎年恒例となりました、岩見沢在住のイラストレーター藤川志朗氏によるイラスト展 2015 年第 1 弾。年々進化を続けて魅力アップしている藤川氏の最新作をご覧ください！



3 月の市民園芸講座のご案内



- 3 月 14 日 (土) 10:00~12:00 バラの系統と特徴について
無料 定員：40 名 講師：工藤 敏博さん イコロの森代表
- 3 月 15 日 (日) 13:00~15:00 家庭果樹の楽しい管理
無料 定員：40 名 講師：内田 哲嗣 中央農業試験場
- 3 月 22 日 (日) 13:00~15:00 色彩館でスケッチしよう
無料 定員：40 名 講師：藤川 志朗さん イラストレーター
- 4 月 12 日 (日) 13:00~15:00 ハンギングづくりの基本
有料 1500 円 定員：40 名 講師：梅木 あゆみさん コテージガーデン代表

編集・発行 空知リゾートシティ株式会社 (いわみざわ公園バラ園指定管理者)
お問合わせ いわみざわ公園バラ園 室内公園「色彩館」 0126-25-6111